



第42回致芳地区運動会

縮充 変わる「やり方」つなぐ「致芳らしさ」 「ピンチをチャンスに！」夏まつり&地区運動会の改革成功！

今年度、「致芳橋」架橋促進夏まつり大会」と「致芳地区運動会」は、新形式で再スタートし、当面の方向性を確立することができました。今回は、そのプロセスと成果を誌面にまとめてみました。

まず、新型コロナウイルス感染症の流行により、令和2～4年度の3年間は、地域住民が一堂に会する事業は中止や形式を変えて実施してきました。

しかし、どの事業も少子高齢化による人口減少や事業のマンネリ化、役員の負担などの課題を抱えていたのが実態です。その中でも改良を加えながら事業を継続的に実施してきたものの抜本的な見直しに着手することができずにおりました。

そこで、コロナ禍で事業を制限せざるを得ない状況を逆手に取り、3年間に及ぶ見直しと試験的な挑戦を経て今年度の実施に至りました。

6年ぶりの歓声

第42回致芳地区運動会は、10月8日(日)に長井北中学校体育館を会場に行いました。コロナ禍の3年間に加え、悪天候による中止も含めると、平成29年度以来、実に6年ぶりの開催となりました。

競技内容の見直しにより、各チームの選手数も大幅に減少しましたが、300人を超える人数が集結し、従来通り8チームによる戦いとなりました。この大会から、レクリエーションやNEWスポーツ的な要素を加え、単に体力や若さ、性別が必ずしも勝利に繋がらない内容を設定し、誰でも楽しめる大会を目指しました。

初めての屋内開催となりましたが、各チームの陣地が近いことや、ポッチャでは対戦チームとの交流なども図れることから、従来の大会に比べて、地域住民同士の交流が活発に行われました。

上位の結果は、五十川北部チームが王座を奪還し16回目の優勝を飾りました。2位は、連覇を狙った森チーム。3位は、大縄跳びで大健闘した成田Aチームという結果でした。



ワークショップによる課題出し



新しいスポーツの在り方を学ぶ(語る会)

これまでの取り組み

従来の地区運動会の課題

- ・選手選考の負担
- ・役員の負担(会議・事前準備・片付け)
- ・参加者の固定化
- ・種目のマンネリ化
- ・年齢や性別による出場制限
- ・天候不順

項目	従来(令和元年度まで)	新形式(今年度)	効果と課題
会場	致芳小学校グラウンド	長井北中学校体育館	・天候に左右されない ・各チームの陣地が近く交流しやすい(顔が見える)
競技数	12種目	3種目	・選手選考の負担軽減
各チーム出場人数	100人(重複可)	30人(重複可)	・少人数でも出場可能
出場チーム数	8チーム	8チーム	・従来通り
出場資格	3種目:年代別の設定 1種目:性別の設定	制限なし	・高齢者の出場が少ない
大会役員数	約100人	約40人	・会議や事前準備作業の回数削減 ・各チーム選出役員の廃止(記録、審判、用具係など) ・主にスポーツ振興会役員